

CDP質問書 回答支援 サービスのご紹介

～ ESG評価を向上させるために～

一般社団法人 非財務情報保証協会

CDP 質問書への回答が必要な理由

1

ESG 投資の拡大

- 企業のESG（環境・社会・ガバナンス）情報に着目したESG投資が急拡大している。
- ESG投資では、企業の持続可能性と将来のリスク・機会・財務影響を評価するため、ESG調査機関による調査や格付の情報が企業評価に使われる。

2

CDP の高い知名度・影響力

- CDPはESG調査の中で、機関投資家による知名度、影響度が最も高い。
- CDPは、CDSB（気候情報開示基準委員会）、RE100、SBTイニシアティブの事務局を務める他、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）との連携を深めるなど、ESG分野の今後の動向を左右する重要なプレイヤーである。

3

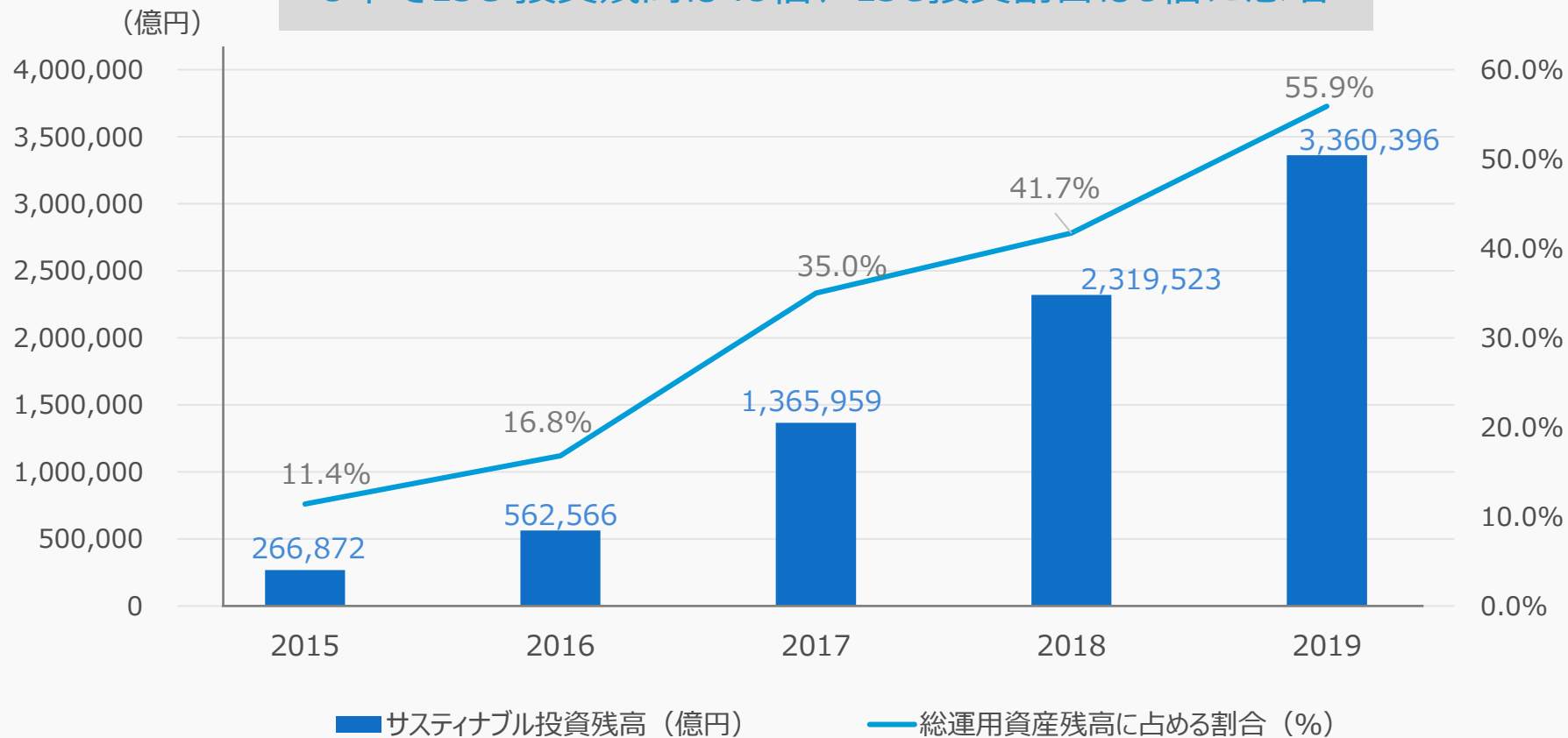
CDP のデータは機関投資家に提供される

- CDPのデータは、ブルームバーグ、トムソン・ロイター、クイック、FTSE、MSCI、DJSI、サステナリティクスといった機関投資家が日常的に使用するツールやインデックスに提供されており、ESG分野において絶大な影響力を持っている。

ESG 投資の現状

日本国内のサステナブル投資残高

5年でESG 投資残高は13倍、ESG投資割合は5倍に急増



出典： NPO法人日本サステナブル投資フォーラム「日本サステナブル投資白書 2017」、「サステナブル投資残高アンケート 2019 調査結果」

CDP 質問書へ回答する際の課題

1 専門的な内容が多く、回答が難しい

- 質問の内容が多岐にわたり専門的な内容も多い。
- 回答経験が浅い担当者にとっては何を回答すればよいかわからず、高評価を得ることが難しい。

2 回答テクニックが必要

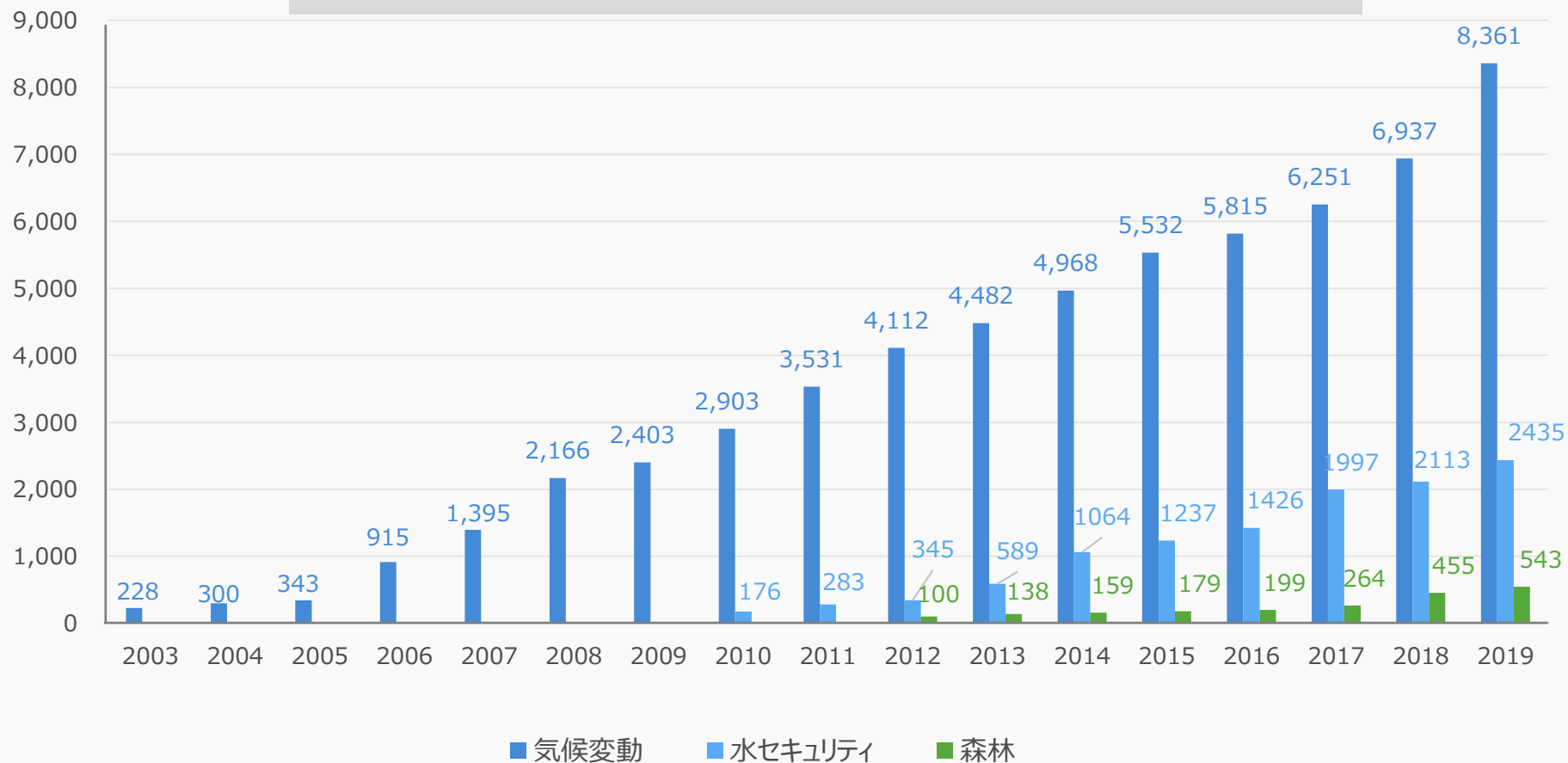
- 高い評価を得るためには、採点基準やガイダンスの読み込みと高評価企業がどのように回答しているかの事例収集が欠かせない。
- 高評価を得るためには、気候変動対策の実施に加えて、回答のテクニックが必要。

3 回答に時間がかかる

- CDP質問書の回答作成時期は、環境・CSR・IR担当者の繁忙期と重なる。
- そのため、時間をかけて回答作成準備をすることが難しく、回答提出自体を行わなかったり、前年の回答をそのまま使いまわしたりすることが多い。

CDP の回答企業数（世界全体）

回答企業は年々増加している



出典：CDP ウェブサイト

Aリスト日本企業（2019年）

- ▶ 全世界で181社が気候変動Aリスト企業（最も評価が高い企業）に選定された。
- ▶ 日本のAリスト企業数は38社で、世界で一番多い。
- ▶ スコアリング対象となった8,000を超える企業のうち、Aリスト企業は上位2%に相当する。
- ▶ STOXXによると、Aリスト企業は、2011年末から2019年頭にかけて、株式市場で同業他社を年率5.5%アウトパフォームしている。



気候変動 Aリスト企業（38社）

エーザイ、小野薬品工業、アサヒグループホールディングス、キリンホールディングス、サントリー食品インターナショナル、住友林業、日本たばこ産業、積水化学工業、積水ハウス、大東建託、大和ハウス工業、戸田建設、小松製作所、ソニー、トヨタ自動車、豊田自動織機、ナブテスコ、ニコン、日産自動車、パナソニック、富士電機、富士フイルムホールディングス、横浜ゴム、花王、住友化学、東京製鐵、アスクル、イオン、丸井グループ、リコーリース、MS&ADインシュアランスグループホールディングス、SOMPOホールディングス、東京海上ホールディングス、日本電気、野村総合研究所、富士通、ベネッセホールディングス、川崎汽船



水セキュリティ Aリスト企業（23社）

塩野義製薬、アサヒグループホールディングス、キッコーマン、キリンホールディングス、サントリー食品インターナショナル、日本たばこ産業、東京ガス、クボタ、ソニー、トヨタ自動車、トヨタ紡織、日産自動車、日立製作所、三菱電機、横河電機、AGC、LIXILグループ、花王、東レ、日産化学、住友商事、日本電気、富士通



森林 Aリスト企業（1社）

不二製油

日本企業の評価分布



気候変動

評価	2017年		2018年		2019年	
A	13	5%	20	7%	38	11%
A-	59	22%	31	11%	58	16%
B	79	30%	97	36%	125	35%
B-	4	2%	25	9%	24	7%
C	69	26%	49	18%	57	16%
C-	3	1%	0	0%	0	0%
D	28	11%	44	16%	47	13%
D-	7	3%	7	3%	6	2%
合計	283	100%	297	100%	356	100%



水セキュリティ

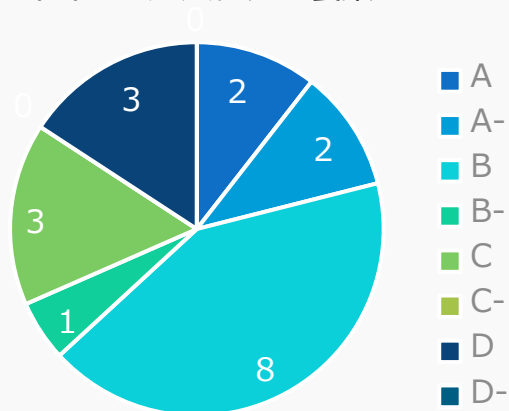
評価	2017年		2018年		2019年	
A	12	7%	8	5%	23	12%
A-	17	10%	9	6%	23	12%
B	56	34%	27	17%	52	27%
B-	22	14%	43	28%	49	25%
C	38	23%	55	35%	37	19%
C-	2	1%	1	1%	2	1%
D	15	9%	13	8%	14	6%
D-	3	2%	0	0%	1	0%
合計	176	100%	180	100%	194	100%

※ 2018年は前年から大幅に質問内容が変更され、多くの企業が評価を落とした。

出典：CDP 気候変動 レポート 2019：日本版、CDP ウォーターセキュリティ レポート 2019：日本版

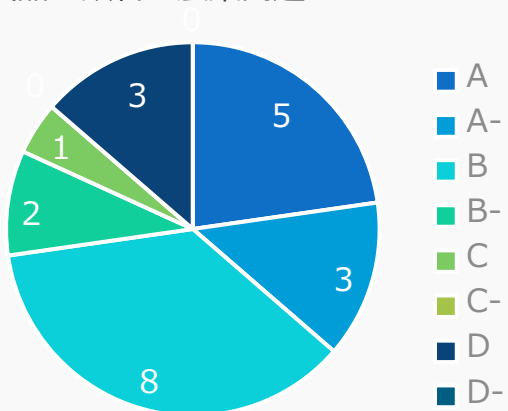
日本企業のセクター別スコア分布（気候変動）

バイオ・ヘルスケア・製薬



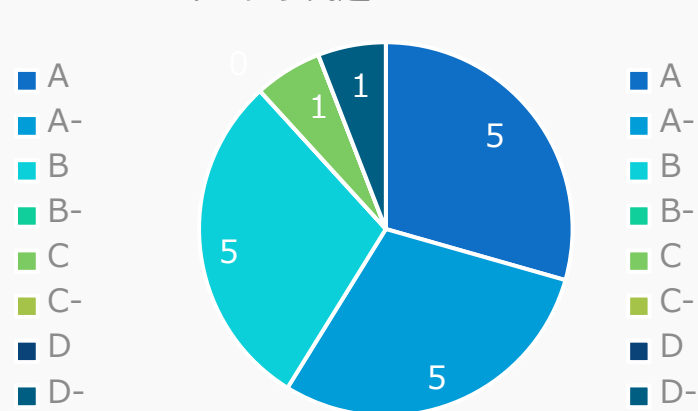
回答率 71%

食品・飲料・農業関連



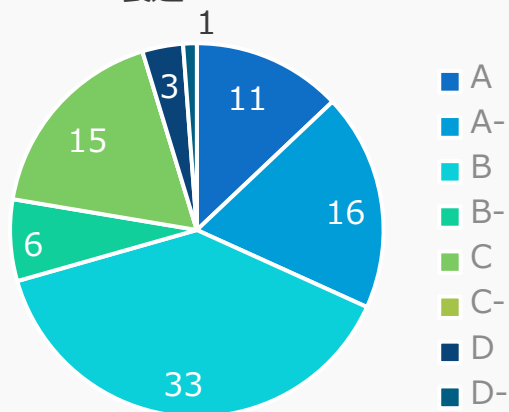
回答率 74%

インフラ関連



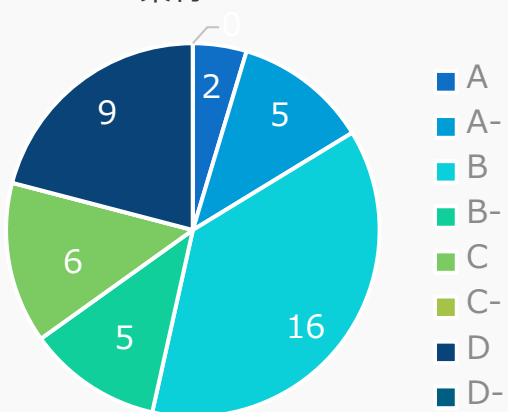
回答率 57%

製造



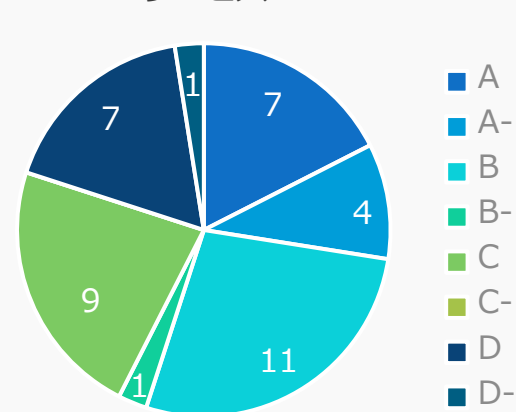
回答率 83%

素材



回答率 80%

サービス



回答率 46%

出典：CDP 気候変動レポート 2019：日本版

回答で重要なカテゴリー

- CDP気候変動でB以上の評価を得るためには、マネジメントレベルの得点率が重要になり、C2(リスクと機会)の回答内容が特に重要となる。
- CDP気候変動でAおよびA-の評価を得るためには、リーダーシップレベルの得点率が重要になり、C2(リスクと機会)とC1(ガバナンス)の回答内容が特に重要なる。
- C1およびC2は記述式の質問が多く、高得点を得るためには、回答のテクニックが必要。



例：気候変動2019の配点割合（その他・一般セクター）

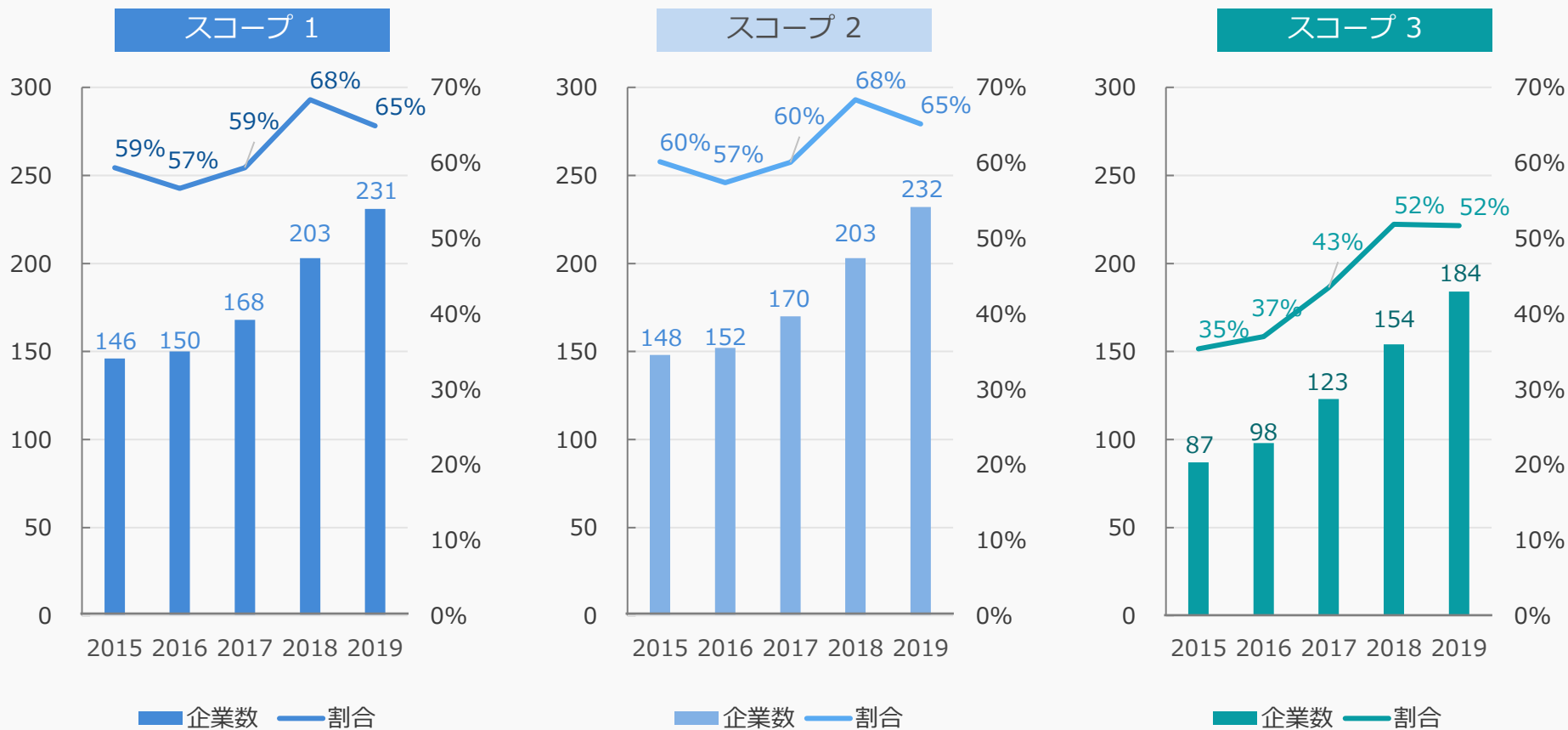
	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	C9	C10	C11	C12	C13	C14
マネジメントレベル 配点割合	16%	50%	4%	12%	0%	3%	7%	3%	0%	0%	0%	4%	0%	0%
リーダーシップレベル 配点割合	24%	33%	4%	17%	0%	2%	9%	6%	0%	0%	0%	2%	0%	1%

出典：CDP Climate Change Scoring Methodology 2019

（注）業界および回答方法により配点が若干異なるため、大まかな目安として記載する

第三者検証・保証の実施状況（CDP気候変動）

高評価を獲得するには、第三者検証・保証が不可欠になっている



出典：CDP 気候変動レポート 2015～2019

当協会の CDP 回答支援サービスの概要

支援対象	<ul style="list-style-type: none">• CDP 気候変動質問書• CDP 水セキュリティ質問書• CDP 森林質問書• CDP サプライチェーン質問書
回答案の言語	日本語（英語も可：要相談）
回答案のレビュー回数	3回（標準コース）
支援時期・期間	4月～7月末（約3か月）
支援費用	一つの質問書につき80万円～150万円程度 （支援内容、前年度評価により変動）
当協会の支援の特長	業務効率化と業務フローの見直しにより、高品質で格安な料金設定を実現

当協会の CDP 回答支援サービスの概要

前年度回答のレビュー

回答案レビュー①

回答案レビュー②

回答案レビュー③

ご支援内容	前年度回答内容のレビュー	<ul style="list-style-type: none"> 今年度回答案のレビュー（日本語） 	<ul style="list-style-type: none"> 修正した回答案のレビュー（日本語） 	<ul style="list-style-type: none"> 再修正した回答案のレビュー（日本語）
	失点箇所の推定	<ul style="list-style-type: none"> スコアリングメソッドロジックに基づきプレ採点を実施① 	<ul style="list-style-type: none"> スコアリングメソッドロジックに基づきプレ採点を実施② 	<ul style="list-style-type: none"> スコアリングメソッドロジックに基づきプレ採点を実施③
	改善案の提案	<ul style="list-style-type: none"> 失点する可能性がある設問を特定① 	<ul style="list-style-type: none"> 失点する可能性がある設問を特定② 	<ul style="list-style-type: none"> 失点する可能性がある設問を特定③
	参考回答事例の紹介	<ul style="list-style-type: none"> 回答のアドバイス、回答例を提示① 	<ul style="list-style-type: none"> 回答のアドバイス、回答例を提示② 	<ul style="list-style-type: none"> 回答のアドバイス、回答例を提示③

（英語で回答する場合は、回答案を英訳
CDPへ回答提出）

支援期間：4月～6月末

当協会の CDP 回答支援サービスの特長

CDP回答の課題

- 2018年に大幅に質問内容が変更になり、質問内容も高度になった。
- 新設問に対応できずに評価を落とす企業が多数あった。

支援の特長

以下の経験を持つコンサルタントが回答を支援

- CDPスコアリングパートナーにおける採点経験
- 2019年Aリスト企業6社の回答を支援
- 10年超のCDP回答支援経験

- リスク・機会・戦略に対しての企業の認識や対応に関する質問のウエイトが大きくなっている。
- リスク・機会・戦略に関する質問で高得点を取ることが、スコアアップには欠かせない。

以下の専門的知見を持つスペシャリストが回答を支援

- リスク戦略・経営戦略の立案
- 環境経営戦略に関する専門性
- ESGファンドにおける組入企業選定実務

- CDP質問書の回答は公表され、投資家がESG投資をする際の判断材料になる。
- 気候変動や水問題に関する国際動向を踏まえ、質問の意図を正確に理解し回答することが重要。

以下の専門的知見を持つスペシャリストが回答を支援

- 国の気候変動対策政策の立案と実行に従事
- 気候変動対策の国際動向に精通
- 炭素クレジットの取引実務経験

お問合せ

一般社団法人 非財務情報保証協会

CDP回答支援担当

info@hosyo.org

WEB : <https://hosyo.org>